

元気 パワー
*** GP 農法だより ***
 無農薬自然農法 元気パワー農法

発行 GP農法研究会 NO17

代表 佐藤 陸

〒344-0041 埼玉県春日部市増富 243-53

TEL 090-4672-1285 FAX 048-763-5362

《GP農法について》

消費者に安心安全と美味しい農産物を提供することは生産者の使命です。そのために、私たちは福岡・岡田式自然農法に学んで農業技術を研鑽しています。無農薬自然農法のポイントは次の三点です。

- ① 化学肥料を使用しない。
- ② 農薬は使わない。
- ③ 微生物の力を利用する。

しかし、岡田・福岡式自然農法とも効果が出るまで3～5年の歳月が必要なため、その間は収量が大幅に落ち経済的にも困難になります。我慢しきれなくなり、農薬や化学肥料を使用すればこの農法は失敗に終わります。

自然農法で栽培された農産物は「醗酵する米・野菜」となり身体にとって有効で付加価値の高い生産物になります。アトピーを治すために親は「醗酵する米」を追い求めています。野菜は腐らず枯れ、米は醗酵しドロクになります。

GP農法は福岡・岡田式自然農法を継承しながら、三つの農業資材で、誰にでもできる(再現性)と短期間に効果の出る方法の開発に成功しました。これを「GP農法」(G=元気、P=パワー)と命名しました。

《GP 農法の移行期について》

農薬使用の従来の農法から、新規に GP 農法に切り替えようとした時に、多くの方がつまづきます。

それは GP 農法がどんなに良いものでも、そして、福岡・岡田式よりも極端に短い期間で取り組めると言っても、セラミックを入れたからと言って、1 度も壁にぶつかることもなく無農薬野菜が収穫できるということは、残念ながら少々難しいことかもしれません。

それは長年に渡り農薬を使い続けたことで、土の状態がかなりひどいからです。茨城県西部の野菜産地では、「土壌疲弊」が大きな社会問題になっています。

私たちが思っている以上に、土や微生物の状態が悪すぎるのです。

私たち人間が単に風邪をひいた時と、インフルエンザなどのように状態がひどい場合は、薬を服用しても完治す

るまでに時間がかかります。誰も皆、1 日で治るとは思わないでしょう。治るまでには、日数がかかるのです。例えばまた、「虫除けスプレー」をしたとしても、「絶対」刺されないとは言いきれません。そういう意味では、GP 農法も「絶対」虫が来ない、とか「1 匹も」来ないとかという表現にはあてはまらないのです。

それからつまづいてしまう、もう一つの大きな要因として、「波動」の問題があります。

GP 農法のセミナーに来られた方はご存知でしょう。GP の波動の入った野菜やセラミック又は土を持ち、10秒経つとその人にもものすごいパワー(波動)が入り、フラフラしていた立ち方が、いきなり下半身がしっかりしてふらつかないテストがあります。

「波動」は目には見えないため、なかなか日常生活では受け入れにくいものですが、実際には大きな影響力があります。GP セラミックの良い波動を微生物に活用するわけですが、人為的にマイナスの波動になってしまった時には、GP 農法の取り組みのつまづきの要因になります。

しかし、現に GP 農法は、

- ①できた野菜が、大学の研究所で使用されてる測定器で針が測定範囲を振り切るほどのプラスの数値を出したことも事実ですし、
- ②害虫も病気も大幅に減った、
- ③雑草エキスの原液を畑にたっぷり散布したら、根コブ病は全くでなかった、
- ④ネギのサビ病がでなくなった、
- ⑤ニンニクの肥大がビックリするほど大きくなった、
- ⑥トマトの疫病が今年は出なかった、昨年の収穫は三段まででしたが、今年には五段まで収穫し、十段以上まで取れそうだ…

といった事例の声が、取り組んだ農家さんから出ているのはまぎれもない事実なのです。

GP 農法の関係者は、少しでもこの本質を皆さんにご理解いただき、つまづく時もあり…という面持ちで、この農法が日本だけでなく、世界中で必要なところに広がることを望んでいます。

《NPO 2050 とタイアップ、 ネパールで GP農法が広まります！！》

6月8日（土）、東京・市ヶ谷のJICA 地球ひろばにおいて、20年間、ネパールで村々を回りながら村人の生活基準を上げようと活動されている垣見一雅さんの報告・講演会がありました。

ネパールのジャーナリストの方々も同行され、垣見さんの活動をより具体的に報告されました。

その席上、GP農法の紹介もありました。6月16日付けのNPO2050のメルマガには次のように掲載されており、また国連の方ともつながる中で、ネパールでの活動が本格化していっています。

◆記事◆

～～（略）さらに、2050としてはネパールの農民たちが有機農法で自立できるようにと、GP農法推進プロジェクトが開発した「GP農法」を農民の間に推進して彼らの自立を助けるという意思表示をおこなった。



垣見さん（中央）を囲んで。ネパールのお二人、NPO2050 会長、公益財団法人地球友の会会長 他

《成分分析》

GP農法研究会では、今年から本格的にGP農法を採用してできた農作物を中心に、成分分析を進めることにしました。1回目は、イチゴ（とちおとめ）です。

検査機関：日本食品油脂検査協会（公益財団法人）

栽培者：埼玉県 林一夫氏

検査項目：ビタミンC

検査結果：83mg / 100g

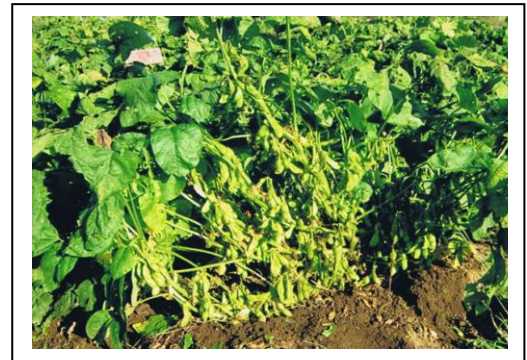
五訂日本食品成分表では、イチゴのビタミンCは平均62mgです。83mgという結果は、**33%とも多い**こととなります。これは驚異的な数値となり、関係者も驚いています。

《大豆畑トラスト運動》

埼玉県春日部市では、3年、GP農法大豆トラスト運動が続いています。消費者が生産者に出資し、生産者とともに大豆を栽培し収穫したものを枝豆や味噌などに加工していきます。今年で4年目になりますが、今年からは運動の拠点を埼玉県・鳩山町に移しての運動です。

2011年7月には、月刊誌「現代農業」がこの運動の取材に来られました。2012年（去年）の収穫時あまりの多さにサヤを数えたところ、なんと**1株に528サヤ**も付いたものがありました。

下の画像は去年10月19日のものですが、しっかりとしたサヤをぎっしり付けています。



《雑草エキス作り》

気候が暑くなり、各地で雑草エキス作りが始まりました。埼玉県 春日部市内 3カ所、鳩山地区、久喜市内、大宮市内、茨城県内 各1カ所 長野県内 2カ所 さらに島根県にも広がろうとしています。

この度、雑草エキスを作る際の資材に「霊芝パウダー」が加わりました。これは、漢方生薬である「霊芝」そのものを粉末にし、GP農法に必要なパワーを特別処理したものです。これを加えることで、発酵熟成する期間は長くなってしまいましたが、できあがったエキスの効能が飛躍的に向上しています。

土中に埋設するセラミックは「遅効性」です。雑草エキスは、土壌の改善の他に生育中の農作物や葉などに希釈散布することで「即効性」の効果があります。GP農法を少し体験したい方は、出来上がったエキス（1本500ml）もあります。良かったらお試しください。

次号では、使用すると良い草の名前などを一部紹介する予定です。